

マーチ王、スーザが激賞したバンド、金管バンド(プリティッシュスタイル)の世界最高峰、創立130年の歴史的バンドが、ザ・シンフォニーホールに!

The Salvation Army

New York Staff Band official URL <http://www.nysb.org/MusicMinistry/>



NEW YORK STAFF BAND



ニューヨーク・スタッフ・バンド 大阪公演

2018年

3月20日(火) 開場 18:00 開演 19:00

S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000 (税込)

会場:ザ・シンフォニーホール



所在地 〒531-8501 大阪府大阪市北区大淀南二丁目3-3

- JR大阪環状線 福島駅から北へ徒歩約7分。
- JR東西線 新福島駅 1番出口から北へ徒歩約10分。
- 阪神電車 福島駅 2番出口から北へ徒歩約10分。
- JR大阪駅から西へ徒歩約15分。

ESTABLISHED 1887

130年にわたり引き継がれた伝統の響き
ザ・シンフォニーホールの残響2秒、至極の響とともに!

指揮 デリック W. ランス 楽長
Bandmaster Derek W. Lance

演奏予定曲目

ミハイル・グリンカ 歌劇「ルスランとリュドミラ」より " 序曲 "
Overture from 'Ruslan and Lyudmila' Mikhail Ivanovich Glinka

エリック・ボール 「強く雄々しき歌」
'Song of Courage' Eric Ball

他



主催 / 救世軍本営
 共催 / ザ・シンフォニーホール
 後援 / 朝日新聞社 米国大使館 大阪府教育委員会
 日本ブラスバンド指導者協会
 株式会社 ビュッフェ・クランポン・ジャパン

チケットご予約・お問い合わせ
 ●ザ・シンフォニー チケットセンター
 06-6453-2333 <http://www.ssymphonyhall.jp>
 (営業時間 10:00~18:00 休業日 毎週火曜日)

その他、お問い合わせ
 ●救世軍本営 03-3237-0838 URL <http://www.salvationarmy.or.jp>
 (受付時間 9:00~17:00 土・日・祝日 休み)
 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。
 ※やむを得ない事情により、出演者、曲目等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

29年ぶりの来日、大阪公演

2017年創立130年を迎えたニューヨーク・スタッフ・バンド(NYSB)が、2018年3月、ザ・シンフォニーホールにやってきます。NYSB創立、125周年演奏会は、かの「カーネギーホール」で行われました。今回、ブリティッシュスタイル金管バンドの名門中の名門、ブラック・ダイク・バンドからも絶賛の推薦を受けた本公演に、ぜひご来場賜り、聖なるブラスの真髄をご堪能ください。

カーネギーを満たした、NYSBサウンド



カーネギーホールで行われた創立125周年記念コンサート
New York Staff Band official URL <http://www.nysb.org/MusicMinistry/>

130年の歴史が醸し出す特別な響き

ニューヨーク・スタッフ・バンド(以下NYSB)は、130年の歴史の中で、複雑なオーケストラ楽曲を操る高度な技量を奏でつつも、パイプオルガンを彷彿とさせる荘厳で立体的なサウンド、歌心に溢れた賛美歌の伴奏まで、金管楽器を自在に用いて、神と人ともに喜ばれる奉仕を続けてきました。

NYSBの卓越した音楽性は、ニューヨーク・フィルハーモニック首席トランペット奏者、フィリップ・スミス氏など、多くの名プレイヤーを輩出してきた歴史によく表されていると言えるでしょう。今回の来阪公演では、ジュリアード音楽院出身のデリック・ランス楽長が指揮を務めます。

NYSBは、「英国式ブラス・バンド」という形態の金管バンドです。19世紀初頭、救世軍の奉仕活動での演奏や、炭鉱労働者の中で普及したのが始まりと言われています。英国式金管バンドは、金管楽器をメインに構成されますが、木管楽器がない分、金管楽器奏者に、より高度な技術や音楽性、何より柔らかく統一感のある音色が求められます。

NYSBの前回来日時、レスピーギのローマの松、ブラームスの大学祝典序曲や、マスカーニのカヴァレリア・ルスティカーナといったオーケストラ作品が演奏されており、弦楽器パートを軽々と吹きこなすホルネットセクションやユーフォニアムセクションなど、超絶技巧を披露しました。

この一方、救世軍バンドは、毎週の日曜礼拝で音楽奉仕をしており、礼拝音楽奉仕が、彼らの音楽性と精神性を支える最大の土台となっています。

来日公演へ、「ブラック・ダイク・バンド」からの推薦の言葉
ニューヨーク・スタッフ・バンドは世界最高峰のバンドであり、その演奏曲目は明るく、素晴らしいソリストを擁し、かつ、救世軍の意義を誇りをもって世界中に伝えています。

ブラック・ダイク・バンドと私は、日の昇る国での彼らの公演ツアーの成功を祈っています。

ニコラス・チャイルズ教授
ブラック・ダイク・バンド首席指揮者・音楽監督

カーネギーホールで行われた、ニューヨークスタッフバンド創立125周年記念演奏会には、ニューヨーク・フィルの首席トランペット奏者、フィリップ・スミス氏がゲストソリストとして招かれた。

彼はジュリアード音楽院時代に、父デリック・スミスが楽長を務めたこのバンドに加わり、名手ぶりを遺憾なく発揮した。

また、この演奏会には、ロンドン交響楽団の首席トランペット奏者を務める、フィリップ・コブ氏もゲストソリストとして招かれた。彼は、英国ロンドンで活躍する救世軍バンド「インターナショナル・スタッフ・バンド」で、伝説のホルネット名手、デイヴィッド・ドーズの影響を強く受けつつ頭角を現し、現在はロンドン交響楽団の首席トランペット奏者を務める、父スティーブ・コブは、現在インター・ナショナル・スタッフバンドの楽長を務めている。

なお、ロンドン交響楽団の首席トロンボーン奏者のダドリー・ブライト氏もまた、救世軍音楽家である。



カーネギーホールで行われた創立125周年記念コンサートより

フィリップ・スミス氏とフィリップ・コブ氏が共演!

フィリップ・スミス氏は、ニューヨーク・フィルハーモニック首席トランペット奏者。ニューヨーク・フィルと共に幾度も来日。ソリストとしても幾度も来日しており、その卓越した音色と技量は、救世軍バンドで養われたものだと言及しています。日本にも多くのファンを持つトランペット奏者です。

フィリップ・コブ氏は、ロンドン交響楽団首席トランペット奏者、救世軍ヘンドンバンド所属。ロンドン交響楽団やロンドン交響楽団ブラス・クインテットメンバーとして頻りに来日。吹奏楽雑誌の単独インタビューを受け、表紙を飾るなど、スミス氏同様、日本にも多くのファンを持つトランペット奏者です。



カナディアン・ブラスと共演した、創立130周年記念コンサートより
ニューヨーク・スタッフ・バンドは、今年創立130周年を迎えました。130周年記念演奏会では、日本にもファンを多く持つ著名な金管五重奏団の「カナディアン・ブラス」が共演をしました。このように、NYSBは常に救世軍の音楽家として活動をしながらも、外部の音楽グループと密接に演奏活動を行っており、伝統を重んじつつも常に社会との接点を持って最高の演奏を神に捧げています。